地域課題部門　奨励賞　0782-愛媛県立北宇和高等学校-D138248800013

「また行きたい！」を創出
～鬼北町『等妙寺史跡公園』PR 大作戦～

愛媛県立北宇和高等学校
等妙寺 PR 班
3年　井上拓海　松浦結生　田村直生　小林　結
根本咲菜　加形快人　石山大翔　岸本光太

Ⅰ　活動の背景

1　国史跡『等妙寺旧境内』について

＊奈良山等妙寺歴史交流館パンフレットより引用

等妙寺旧境内は、愛媛県北宇和郡鬼北町の中心地区（近永地区）からすぐの奈良山にある。今からおよそ 700 年前に開かれた山寺跡である。当時は奈良山の谷に 12 個もの建物が建てられおり、日本天台宗を開いた最澄の教えを広め、乱れた世を仏の道で導く僧を養成する修行道場*として、全国から多くの若い僧侶が集まって栄えていたが、戦国時代の末に焼失したそうである。

2　私たちの探求活動

近年、鬼北町により等妙寺旧境内の遺跡発掘調査が進められ、その歴史的価値が明らかになってきた。一帯は「奈良山等妙寺史跡公園」として整備され、昨年（2024 年）９月、史跡公園の入り口に、ガイダンス施設「歴史交流館」がオープすることになった。全国で唯一「鬼」の文字が入る自治体として、「鬼の町づくり」を行っている鬼北町だが、観光資源には乏しく、全国の多くの山間地域と同様に、少子高齢化や過疎化の問題に直面している。探究活動（週に 1 時間の授業）のテーマとして地域課題を調べる中で、等妙寺史跡公園の存在を知った私たちは、歴史交流館のオープンにあたって、**「等妙寺史跡公園」をＰＲし、たくさんの人が訪れる場所にする活動ができないか**考えることにした。

Ⅱ　課題の把握

1　聞き取り調査（6月3日）

現状を把握するため、まずは歴史交流館を訪れ、等妙寺史跡公園を管理している、鬼北町教育課の幡上敬一さん、織田誠司さんにお話を伺った。9 月 21 日の歴史交流館オープンに伴って関連イベントを多数企画中、鬼北町内の小学校や中学校にはすでに歴史交流館のパンフレットを配布し宣伝している、ＳＮＳでも発信中、今のところ史跡公園を訪れる人は高齢者が多い、これから 20～30 代、子育て世代にも来てほしいと考えている、とのことであった。

2　現地調査（7月8日）

史跡公園に実際に行って様子を確認した。途中、日影がなく辛いところがあるものの、頂上まで往復 90 分ほどで、ハイキングにちょうどよいコースだった。苔むした旧参道、散策ルートに沿って流れる小川、700 年前の建立時から残る石段や壁、石橋、風呂跡などの史跡があった。また、頂上にある展望台は、登ってきた谷と鬼北町の中心地区が一望できた。

等妙寺史跡公園の現状
◎等妙寺歴史公園は、歴史と自然が融合したとても魅力的な場所
◎若い人にも来てほしい

↑修行僧も通った旧参道

↑遺構（カゴ池の石積み）

↑展望台からの眺め

↑散策ルートのそばを流れる小川

写真1　現地調査での様子

Ⅲ　作戦会議

1　私たちのアイディア

聞き取り調査と現地調査の結果から、私たちは次の作戦を立てた。

等妙寺史跡公園 PR 大作戦　**若い世代をターゲットにした、自然満喫イベント！**
資料館の管理人さんなどが史跡ガイドをするのに同行して、、、
作戦①　フォトミッション
　☞参加者に写真を撮りながら回ってもらい、史跡公園の見どころを印象付ける。
作戦②　アルバムプレゼント
　☞フォトミッションで撮った写真を後日、アルバムにしてプレゼント。
　　史跡公園を思い出して印象付ける。周囲の人への宣伝効果も期待。
作戦③　頂上イベント
　☞登った達成感とともに、ちょっとしたお楽しみ。

図1　フォトミッションの説明
実際のイベントで使ったチラシより

フォトミッションとは、指定された場所・ポーズで写真を撮るものである（**図1**）。作戦実行の第 1 弾として、小学生対象のイベント実施を考えた。小学生を対象としたのは、等妙寺歴史公園の自然を一番楽しんでくれそうな世代だと考えたからである。頂上イベントは、小学生が喜ぶような、梅の種飛ばし大会や紙飛行機大会を考えた。

2　鬼北町教育課への相談、改良

「小学生対象のフォトミッション＆頂上イベントを行いたい」と、鬼北町教育課の織田さんに相談したところ、史跡ガイド自体も高校生が行ってはどうか、と提案をいただいた。私たちは、なぜか「はい」と即答した。この二つ返事が、PR 大作戦の運命を大きく変えることにもなる。さらに、初めての実践の場として、鬼北町立近永小学校の希望者が参加して課外活動や文化体験活動を行う「わんぱく学級」（近永公民館主宰）の機会をいただけることになった。梅の種飛ばし大会を、広さが十分にある頂上付近のテラス（如意顕院跡）で行う許可もいただいた。

Ⅳ 作戦実行

1 わんぱく学級(10月5日)

(1) 準備

ガイドは、12か所の史跡をメンバーで分担して行うことにした。等妙寺史跡公園のパンフレットの内容をもとに、小学生に伝わる易しい言葉で伝えるよう練習した。初めてのガイドということで、とにかく参加者に「説明が聞こえなかった」と言われることだけは絶対にないように、以下を私たちの使命とした。

作戦成功のための使命
とにかく大きな声でガイド。

図2 フォトミッションチラシの一部
実際のイベントで使ったチラシより

オンライン無料グラフィックデザインツールを用いて、フォトミッションのチラシを作製した（**図2**）。ミッションは、「カゴ池の石積みで水あび」「本坊の石積みで座禅」など、等妙寺史跡公園の見どころが印象の残るような６つを考えた。フォトミッションの撮影には、プレゼント用アルバム作成がしやすいよう、学校の iPad を用いることにした。実施後の参加者アンケートの回収がスムーズになるよう、Microsoft Forms でアンケートを作成した。ＱＲコードを当日配布するフォトミッションのチラシに載せておくことにした。もちろん、梅も準備した。

１年間の活動を通して、チラシやアルバムの作成、web 申し込み・アンケート回収は、探究活動にバイスをいただいている、地域おこし協力隊の藤波かえさんに教えていただいた。ウェブ機能の活用は、私たちの活動で、なくてはならないアイテムとなった。

大きな声で史跡ガイド

幼児をおんぶして登る

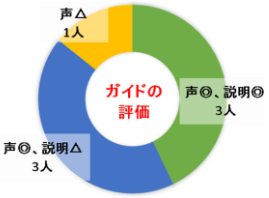
写真2 わんぱく学級の様子

(2) 実施（10:00～12:30）

当日集まった参加者は、幼児から小学６年生までの５名と、保護者などの大人５名の計10名だった。私たちが行う仕事は３つ、<u>史跡ガイド、フォトミッションの説明・補助、頂上イベント（梅の種飛ばし大会）の進行</u>である。

参加者を引き連れて出発、みんなに伝わるよう、ガイドのタイミングに気を配りながら進んだ。梅の種飛ばし大会は、「もう一回やりたい！」と、小さな子どもに大好評だった。フォトミッションは、小学生だけでは難しかったようで、高校生がアドバイスをしながら一緒に撮ることにした。幼児は疲れて、高校生がおんぶをして登ることもあった（**写真2**）。

Q.高校生ガイドの声の大きさ・説明はどうでしたか。



声:声の大きさ･聞き取りやすさ
説明:説明の分かりやすさ
◎:よい △悪い

Q. 等妙寺歴史公園に、もう一度行きたいと思いますか。

【等妙寺史跡公園に関する感想】
・地域の史跡を身近に感じた　・僧侶の気分が味わえた
【企画に関する感想】
・梅の種飛ばしが楽しかった　・写真を撮るのが楽しかった

図3 わんぱく学級の参加者アンケート結果

(3) 実施後

実施後の参加者アンケート結果は**図3**の通りである。ガイドについて、比較的高評価をもらえて安心した。ほとんどの方に、等妙寺歴史公園に、「また行きたい」と感じてもらえた。「もう行きたくない」と回答した方は、体力的にきつそうだった。感想から、史跡や自然を感じながら、企画を楽しんでもらうことができたようだ。知らない人の前でガイドや進行をするため実施前は不安が大きかったが、私たち自身も参加者と一緒に楽しむことができた。アンケートで好意的な評価を得たことで、もう一度やってみたい、私たちはもっとＰＲ活動に貢献できるのでは、という自信がつき、次なる企画を考えることにした。

第２回の作戦実行に向けて、鬼北町教育課の織田さんと反省会を行った。織田さんは、わんぱく学級も参加していただいており、「高校生と参加者が無邪気に楽しんでおり、高校生だからこそできる企画が良かった。ガイドは、高校生自らが発見した魅力を語れると、もっとよくなる。」とアドバイスをいただいた。

アンケート結果や反省会から、第２回の実行に向けて、作戦を見直した。

写真3 参加者プレゼントのフォトミッションアルバム

等妙寺史跡公園 PR 大作戦 改訂版　若い世代をターゲットにした、歴史体感＆自然満喫イベント！

<u>作戦⓪　史跡ガイド</u>　☞台本通りではなく、自分が発見した魅力を混ぜる
<u>作戦①　フォトミッション</u>　☞参加者に写真を撮りながら回ってもらい、史跡公園の見どころを印象付ける。
＊参加者自ら楽しむには、中学生以上または親子対象で。
<u>作戦②　アルバムプレゼント</u>　☞フォトミッションで撮った写真を後日、アルバムにしてプレゼント。
史跡公園を思い出して印象付ける。周囲の人への宣伝効果も期待。
<u>作戦③　頂上イベント</u>＊必須（好評）　☞登った達成感とともに、ちょっとしたお楽しみ。

写真3は、後日作成したフォトミッションアルバムである。飛び出す形にして、少し豪華に見えるようにした。小学校を通じて参加者に渡していただいた。

2 独自企画フォトミッションガイドツアー（12 月 14 日）

わんぱく学級を経験したことで少し自信を付けた私たちは、参加者募集から自分たちで行う独自企画フォトミッションガイドツアーを行うことにした。経験と反省から、以下を私たちの使命とした。

作戦成功のための使命
史跡ガイドの中で、自分なりに魅力を伝える

(1) 準備

参加申し込みＱＲコード付きの宣伝チラシを作製し、近隣の小中学校と鬼北町青年団に配布した。北宇和高校のホームページやインスタグラム、等妙寺歴史公園のインスタグラムにも掲載していただいた。フォトミッションを参加者自身で楽しんでもらうため、４人程度のグループでの参加（小学校低学年は保護者同伴）を条件にした。その結果、小学１年生グループ、小学３年生グループ、大人グループ、の３グループ計 14 名の応募があった。

高校生１～２人で１グループを引き連れてガイドすることにした。そのため、等妙寺史跡公園の魅力を自分なりに伝えながら、史跡の説明が一人でもできるように何度も練習した。当日、写真を撮る場所が込み合わないよう、グループによって異なる３種類のフォトミッションチラシを用意した。

頂上イベントは、大人も参加しやすいよう「紙飛行機大会」とした。もしも回収不能な場所に飛んでいったときのことを考え、水に溶ける和紙で行うことにした。

(2) 実施（9:00～12:00）

友達同士で参加した子どもたちは走り回って楽しそうだった。大人グループのフォトミッションはユーモアがあふれており、一番盛り上がっていた。紙飛行機大会では、大人も子どもも全員が参加して笑顔になった。

(3) 実施後

実施後の参加者アンケートの結果は**図3**の通りである。ガイドの評価は、３分の２の方が、「高校生が自分なりに魅力を伝えようとしていた」と答えた。３分の２の方に、「また等妙寺に行きたい」と感じていただけた。参加者とコミュニケーションをとる姿を評価してもらうなど、気持ちが伝わった部分はあったが、ガイドについてはまだまだ勉強が必要だと感じた。

等妙寺史跡公園に関する感想には、「景色がきれい」、「空気が澄んでいる」、「リフレッシュできた」という意見が多く、等妙寺史跡公園の自然は、とても魅力的だということを再確認した。

企画に関する感想では、紙飛行機大会が好評だった他、「高校生が頑張っていることに感動した」「高校生主導というのがいい」といった意見をいただいた。参加者募集のアドバイスなどもあり、地域の方々が、私たちの活動を温かい目で見てくださっている、と感じた。

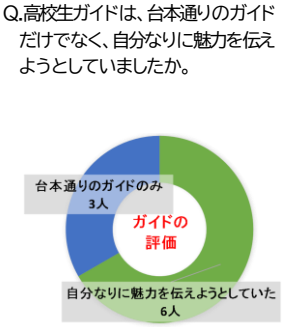
↑参加者と談笑しながら歩く

↑史跡ガイドは参加者の反応を見ながら

↑親子で写真を撮って楽しむ参加者

↑頂上イベント「紙飛行機大会」

写真4 フォトミッションガイドツアーの様子



【ガイドに関する感想】
- ●等妙寺初心者なので、説明の長さ・内容はちょうどよかった
- ●興味をそそる解説があればさらに楽しめた
- ●参加者とコミュニケーションをとっていたのが印象的だった

【等妙寺史跡公園に関する感想】
- ●景色がきれいで、史跡群の魅力を感じることができた
- ●空気が澄んでいて、自然をいっぱい感じられ、心も体もスッキリした
- ●みんなで話しながら、ゆるりとハイキングできたのが楽しかった

【企画に関する感想】
- ●ガイドと写真撮影で、史跡についてより印象に残った
- ●紙飛行機大会は、大人も子どもも楽しめた
- ●高校生が頑張っているのを見て感動した
- ●高校生主導というのがいい！
- ●とても良い場所で、企画も楽しい。ケーブルテレビなどでも宣伝して、もっと参加者が集まれば良いなと思う。
- ●参加者募集の際に、コースの雰囲気が分かる写真や服装、持ち物などのアナウンスをしてもらえるとよかった

図4 フォトミッションガイドツアーの参加者アンケート結果

等妙寺史跡公園 PR 大作戦 を終えて
◎等妙寺史跡公園の史跡・自然は、どの世代にも魅力的
◎高校生の活動を、地域の方が応援してくれている

わんぱく学級の時と同じく、後日、フォトミッションアルバムを参加者にプレゼントして喜んでいただいた。

3 歴史交流館オープン集大成イベントでのミニガイドツアー（3月9日）

私たちの活動は、町内の広報誌に掲載されたり、史跡公園オープン記念シンポジウムで紹介されたりした。役場の方に相談しながら活動してきたことで、３月に歴史交流館オープンイベントの集大成として行われる鬼北町主宰「等妙寺・歴史体感パレード」への協力依頼をいただいた。

企画担当の方と３回の打ち合わせの末、私たちは、JR 近永駅前での仮装パレードに僧侶などの格好で参加した後、30 分の持ち時間（17:00～17:30）で等妙寺史跡公園のミニガイドツアーを行うことになった。せっかくいただいたこの機会に、私たちが感じてきた等妙寺史跡公園の魅力を一人でも多くの方に伝えたいと思い、新たな作戦を立てた。

等妙寺史跡公園 PR 大作戦　特別版　「また行きたい！」を創出するミニガイドツアー

作戦①　旧参道ガイド

☞持ち時間は 30 分。史跡公園の入り口である旧参道を満喫してもらう。

作戦②　妖怪退治寸劇

☞仮装パレードに参加した妖怪も参加。僧侶（高校生仮装）のお経で妖怪退治。旧参道の静かで神秘的な雰囲気を盛り上げる。

作戦③　史跡クイズ大会

☞史跡・景色の特大写真を用いた３択クイズで、旧参道の先へ興味をもってもらう。

図5　ミニガイドツアーの参加者募集チラシ

12 月のイベントと同様、チラシや SNS で参加者を募集した（**図5**）。当日参加も可能で、事前申し込み人数は 22 人だった。

(2)　実施

当日はまず、僧侶の衣装や鬼北町のキャラクター「鬼王丸」の着ぐるみを着て、町内外の参加者とともにパレードを楽しんだ。その後、史跡公園に移動して行ったミニガイドツアーには、事前申し込み人数を超えて、幼児から大人まで 30 名の参加者が集まった。50～60 代の方もおり、興味深そうに説明を聞いていただいた。クイズ大会は、子どもも大人も参加して盛り上がった（**写真5**）。

(3)　実施後

参加者アンケートの結果は、**図6**（回答者数 18 人）の通りである。回答したすべての方に、「また行きたい」と感じてもらうことができた。「このイベントがないと一生来ることはなかったかも。また来るきっかけをもらえた。」、「クイズ大会の写真で見た史跡群の実物が見たてみたい」という感想もあり、等妙寺史跡公園の史跡と自然に興味を持っていただくことができた。今回の目標である「また行きたい！」の創出を達成したように思う。ミニガイドツアーの様子は、愛媛新聞（R6. 3. 13）にも掲載された。

僧侶の衣装で史跡ガイド　　クイズ大会　　妖怪退治の寸劇

写真5　ミニガイドツアーの様子

Q. クイズ大会を通して、旧参道の奥(等妙寺史跡群)の様子が分かりましたか。

Q. 今回のイベントを通して、等妙寺史歴史公園また行きたいと思いましたか？

【“また来たい”と感じた理由】

・自然豊かだったから。　・ちょっと知るといろいろ知りたくなってきた。

・良い運動になるし、昔のことも学べるから。　・高校生が優しかった。

・分かりやすく説明があって楽しかったから。　・クイズ大会の写真で見た史跡群の実物が見たてみたいから。

・楽しかったから。今度はもっとゆっくりじっくり行きたい。

・旧参道は歩きやすいように、山はある程度の光が入るよう伐採していて、とても雰囲気良く歩きやすいから。

【企画に関する感想】

・このイベントがないと一生等妙寺に来ることはなかったかも。また来るきっかけをもらえた。

・クイズとお坊さん・妖怪たちが良かった。　・高校生のみんなの小さい子への対応が良かった。

・高校生が楽しそうに頑張っている姿を見て、こちらも明るく前向きな気持ちになった。

・高校生が頑張って進行しているのが良かった。

・高校生ガイドが面白かった。　・親子で楽しめた。　・またやってほしい。

図6　ミニガイドツアーの参加者アンケート結果

Ⅴ　まとめと次への提案

私たちは、はじめは PR 活動の補助的な立場を想定していた。しかし、鬼北町教育課の方に相談することで、ガイド活動のきかっけをいただき、一度やってみることで次の活動が見え、ガイドツアーを企画・運営するまでになった。はじめは、“若い世代をターゲットにした、自然満喫イベント”を考えてきたが、アンケートの結果、親子連れの他、40～50 代の方にも好評だった。その理由は何より、**史跡を学びながら自然を満喫できるという、等妙寺歴史公園の魅力**にあると思う。さらに、私たち高校生ならではのちょっとしたイベント（梅の種飛ばし大会、紙飛行機大会、クイズ大会）は、参加者に「楽しかった」「また行きたい」と感じてもらう要素にもなっているのではないだろうか。活動する中で、町内の人でも、等妙寺史跡公園を知らないという人がまだまだたくさんいた。今年度、歴史交流館オープンをきっかけに始めた北宇和高校の等妙寺 PR 活動は、まだまだこれからである。初代活動メンバーとして、最後に作戦を立てた。後輩たちに託したい。

私たち３年生の PR 小作戦

◎後輩への引き継ぎ

☞とにかくやってみる！意外とできる！

◎定期刊行物づくり（町内外のスーパーなどに置く）

☞私たちが感じた史跡公園の魅力を伝えたい

後輩に伝えたいこと

◎ガイドの質向上☞史跡保存会など地域の方とつながりを持つ

◎高校生イベント継続☞意外と好評。参加者みんなで楽しむ

◎計画的なイベント実施☞多くの人にイベント周知・参加者増加

◎アルバム作るならテンプレート開発☞実施後の負担軽減